

# 東日本大震災・原発事故から12年

NPO法人  
伊達西地区

## 自治協だより

第41号

発行・編集  
NPO法人  
伊達西地区自治協議会  
事務所:伊達市北後22-1  
発行責任者  
理事長 小野孝雄

1面	被災地・復興支援バスツアー
2面	ワールドワーク・震災遺構 浪江町立請戸小学校
3面	フラワーアレンジメント教室・お父さんが作るお寿司・キーマカレーとナン料理・冬鳥の観察会・折りたたみスツール・おいしい食堂
4面	伊達地域青少年作文コンクール最優秀作品・挽き立てコーヒが楽しめます・編集後記

下記のQRコードから、過去の「自治協だより」をご覧ください  
(市民活動支援センターHP)



バスツアー参加者で記念撮影 (震災遺構浪江町立請戸小学校にて)



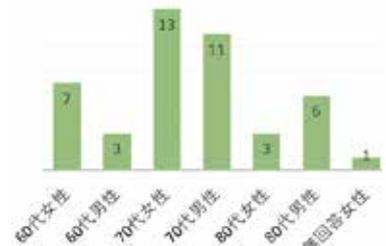
伝承館ブースの展示風景



展示資料に見入る参加者



震災発生当時の映像とアニメーションでの鑑賞風景



### 参加者の年代・性別内訳

#### 1. ツアーの内容



ツアーの満足度 (%)

### 参加者の皆さんの声

- 東日本大震災・原子力災害伝承館
  - ・記憶が薄れてきていたので、震災時を思い出しました。(70代女性)
- 震災遺構請戸小学校
  - ・当時の状況が生々しく残っていて、子どもたちの恐怖を実感しました。(70代女性)
- 伊達市の現状と比較しながら、ツアーを通じて感じたこと
  - ・我が地区は自然災害は少ないが、災害はいつ起こるかわからない。常日頃防災の知識を持つ必要を強く感じさせられた。(80代男性)
  - ・高齢で直接動くことは不可能なので、子ども・孫・ひ孫たちに話をし、少しでも役立ててもらえればなと思いました。(80代女性)

### 被災地・復興支援バスツアー

2011年3月11日、14時46分の震災発生から12年を経過しました。被災地の現状把握と震災対応を考える、NPOとしては、4年振りのバスツアーを、3月1日に開催しました。

2台、総勢46名での催行となりました。双葉町にある東日本大震災・原子力災害伝承館は、原子力災害を中心とした展示や語り部講話を通じて、震災の記録と記憶を教訓として防災・減災に役立てようとして、福島県が建てた施設です。「複合災害の始まり」から、「事故直後の状況」、「被災県民の思い」、「長期化する災害の影響」、「復興への挑戦」の各テーマブースに、映像・写真や展示品などを効果的に組み合わせながら、震災がもたらしたもののや、その後の復興の過程を学ぶことができます。

参加者は、震災当時の状況や経験を思い起こしながら、熱心に各ブースを巡りました。

# フィールドワーク(被災施設や復興状況の視察研修)

津波や原子力災害で被災した施設や復興の現状を見て、学ぶためのフィールドワークを行いました。

被災地出身の現地ガイドさんの同乗案内で、請戸地区の海岸から2kmにある丘陵「大平山霊園」を訪ねました。

震災当時は津波避難場所として指定されていた場所で、当時通っていた請戸小児童・職員全員が、奇跡的に無事避難することができ、現在は、慰霊碑が建立されています。



↑  
現地ガイドさんによる車窓説明



「大平山霊園」慰霊碑での説明風景



「大平山霊園」より東側(太平洋沿岸)を望む



震災当時のままの店舗



汚染土壌が搬入される仮置き場



昨年の地震で倒壊した建物も



立入禁止箇所にはバリケード設置

車窓から見学する浪江町や双葉町(JR双葉駅)の現況ですが、新しい建物が所々に見られる一方、汚染土壌の仮置き場が設置されている箇所もありました。また、帰還者が少ない状況にあり、震災後の地震の影響を受け、被災手つかずの家屋と、既に居住している家屋が混在するなど、課題も多く、まだまだ復興半ばという印象が強く感じられました。



請戸小学校の全景(正面が体育館、右手が校舎)

1873年に創立された請戸小学校は、震災・大津波とその後の原発事故により甚大な被害を受け、震災遺構として整備・保存されています。  
震災の痕跡が色濃く残る1階は、教室、職員室、ランチルーム等があり、参加者の皆さんは、生々しい被災現場を驚きのまなざしで巡りました。  
2階は、被災の影響が少なく、6年生教室には、震災当時、多くの方が書き残した激励の黒板が展示され、また、4年生教室では、被災者等のビデオ上映があり、皆さん真剣に傾聴していました。



震災当時の爪痕が残る1階「職員室」

# 震災遺構 浪江町立請戸小学校

## 「被災地バスツアー」に同行して」

NPO法人副理事長 鈴木克良

定員を上回る応募があり、被災地・復興支援に対する会員の関心の高さが、12年の年月を経た現在でも衰えていないと感じました。

マスメディア等で知る以上に、現地の被災状況は甚大で、深刻な状態であったと思われれます。津波と原発による複合災害、石巻大川小と浪江請戸小との違いなど、考えさせられることが多々ありました。

伊達西地区では、大きな災害は起きないと言われていますが、自然災害は地域・住民を選びません。被害を最小にする為に、普段の心掛け、住民同志の連帯が必要であると、改めて気づいた今回のツアーでした。

### フラワーアレンジメント教室

2月15日(水)、花の店むらかみ代表の村上守人さん、村上恵さんを講師に、季節の花のフラワーアレンジを教えてくださいました。

準備された10種類を超える花の生産地の紹介をはじめ、配置のバランスなど、講師の丁寧な説明・指導を受けながら、参加者の個性溢れる素敵なアレンジメントが完成しました。



村上講師の丁寧な指導風景

### おうちの食堂(おの会主催)

3月25日(土)、いよいよボランティア講座修了生等で運営する「子ども食堂」が始まりました。(小学生無料)

4月からは毎月第2土曜日、11時30分～13時30分に伊達中央交流館を会場に開催されます。子どもを中心とした地域みんなの居場所です。大人の方々も大歓迎。お待ちしております。

### お父さんが作るお寿司

3月15日(水)、割烹三島屋の穴戸邦大さんを講師に、家庭でできる「握り寿司」に挑戦しました。

市販の調味料を利用し、寿司飯を作り、サク状のネタを斜め・縦にカットし、握った酢飯と一緒に押さえ、6種の「握り」が完成しました。慎重なネタ切りに時間をとりましたが、満足いく出来栄になりました。参加者面々の笑みがこぼれました。



ネタ(ヒラメ)の切り方指導風景

### キーマカレーとナン料理

3月23日(木)の大人の料理教室は、麦々工房の金成敦子さんを講師に、手作りナンと本格的なキーマカレー作りを楽しみました。

ナンの材料を混ぜた後、こねて、叩いての作業に、皆さんそれぞれ悪戦苦闘したようですが、オーブンで焼きたてのナンと、スパイスの効いたキーマカレーの二品が完成しました。

今後は、おやつ、夕食の一品として食卓を彩ることになりそうです。



金成講師によるナン作り指導風景

キーマカレー材料を弱火で炒める ↓



### 子どもチャレンジ教室 冬鳥の観察

2月25日(土)、福島市小鳥の森において、親子で冬鳥の観察会を行いました。

小鳥の森レンジャーの増渕翔太さんを講師に、野鳥の種類や特徴、双眼鏡の使用について教わった後、森の中を散策しました。

晴天の中、繁殖期の鳥のさえずりを聞きながらウオッチングに親しみ、お土産に、セリターで焼いたサツマイモをそれぞれ持ち帰りました。

双眼鏡で観察の練習 (ビジターセンター内) ↓



増渕講師の案内でフィールドワーク

### DIY講座 折りたたみスツール

2月18日(土)の午前、午後の2回に分けて、(有)菅野工務店社長の菅野栄次さんを講師に、折りたためる腰掛け作りを行いました。

カット材料からの座面枠や、座面板の配置、脚繋ぎ組み立てまで、工具片手に、参加者の皆さんは額に汗滲ませながら、コンパクトなスツールが完成しました。

佐藤静雄さん、吉田正幸さんのお二人にサポートいただきました。

作業を見守る 菅野講師 ↓



出来上がったスツールと記念撮影

作品介绍  
第38回伊達地域青少年作文  
コンクール最優秀作品より

より良い未来を  
築くためには

伊達中学校 三年 遠藤 由深

私は以前、修学旅行で京都に行きました。京都には、清水寺や八坂神社など、有名な寺や神社がいくつもありません。私は何度も京都を訪れたことがあります。何度も京都を訪れたことありますが、何度見てもその深い歴史や綺麗な見た目に感動させられます。このような寺や神社は、地域の人々によって大切に守られているように感じます。伝統的な物は、いつもたくさんの人々の苦勞によって生き続けるのではないのでしょうか。

例えば、私の学校では、毎年一回文化祭が行われています。私は生徒会に所属しているので、運営に回ります。運営するときには、これまでの文化祭を参考にして考えることが多いです。そのため、学校の伝統的な部分が、文化祭に表れると思います。誰もが学校の文化祭をより良いものにしたと考えています。だから、「この部分を変えた方がいいのではないか」と思う時が多少あります。しかし、実際、簡単に伝統を変えるのは難しいです。変えようとすると、それに反対する人がいる

ことが多いようです。しかし、反対する人は、私が見えようとしている部分のメリットが見えている人たちであり、決して悪い存在ではありません。

だから、伝統をより良いものにするためには、その伝統のメリットとデメリットを考えて、デメリットを改善していけば良いと思います。そうやって、生徒会で、文化祭をみんなが楽しめるものにしていくのです。

学校だけでなく、地域でも同じことが言えます。地域で受け継がれている伝統のメリットとデメリットを考えると、また、そのデメリットを改善することが必要であるということです。

私は最初に、京都の寺や神社は、何度訪れても感動させられるといいました。そして、この作文を書くことにより、その理由が分かった気がします。京都の伝統的な文化は、たくさん地域の人々によって、変化しながらだんだんとより良いものになっていると思います。だから、毎回新たな感動があるのだと思います。

私が住んでいる伊達市では、伝統がよりよく受け継がれていると感じています。

例えば、私の家の近くでは、毎年、天王祭が行われています。コロナで行えなかった年もありましたが、今年も行われるそうです。この天王祭は、地域の人々が協力しながら、もっとより良いものにしていくと頑張っているもの

です。私も大きくなるにつれ、深く地域の伝統に関わっていくと思うので、今のうちから伊達市の伝統について学んでおきたいです。

このように、良い部分を残し、悪い部分を直していくことは、とても重要です。たくさんの人々と協力して、正しく伝統を受け継ぐというのは、大変だけれど、とてもやりがいのあるものだと感じています。だからこれから私たちが築く未来は、一人一人の「こうした方がよいのではないか」という意見が大切になっていくと思います。決して一人ではより良い未来を築くことはできません。

より良い未来を築くためには、今までの伝統や文化のメリットとデメリットをしっかりと理解し、自分の意見を持たなければならぬと思います。その意見が他者の意見とぶつかったとき、他者と話し合い、協力していくことが必要です。学校や地域だけでなく、様々なものをより良く改善するためには、このことがとても大事だと思います。

私は今年受験があり、色々な壁にぶつかることがあると思います。友達や家族、先生方など、たくさんの人に支えられながら、自分のできなかった部分や、分らなかった部分を理解し、「こうすれば良いんだ」という自分の意見をもち、多くの壁を乗り越えていきたいです。

(学校学年は令和4年度です。)

挽き立てコーヒーをご用意しています

伊達中央交流館にエスプレッソマシンが導入されました。挽き立てのコーヒーをご用意しています(一杯100円にて)。お散歩中の休憩や会議の際などにご利用ください。

【利用時間】火~金曜 10時~16時

一杯 ¥100

【利用時間】火~金曜 10時~16時まで

一杯ずつ豆を挽き香り高い本格珈琲 エスプレッソならではの泡立ち(クレマ)もお楽しみください!!

※エスプレッソの適温67°Cでのご提供です

ご利用の際は交流館窓口まで!

編集後記

三年ぶりに被災地復興支援事業を再開することができた。双葉町、浪江町の視察は二度目となったが、被災地の復興はまだまだ道半ばにある。地域の方の一言から始めた事業であった。「被災地の現状を視察すると、私たちが出来る何かに気づくのでは?」と。地域の方々の「気づき」は、地域を変える大きな原動力になる。早速、出来ることから始めては如何だろうか?

(小野孝)